

ハーモニー

本市では、地域の皆さんの協力を得ながら様々な地域活動を通して男女共同参画を地域の推進に取り組んでいます。平成 28 年度は、大平地区で男女共同参画について考えていただく機会として、“地域防災”や“女性の地域組織運営への参画”をテーマに「男女共同参画地域づくり講座」を開催しました。

また、今年度は、さらなる男女共同参画意識の定着と継続的な男女共同参画活動の実現をサポートするためにフォローアップ講座を開催しました。

今回、この 2 年間の大平地区の取り組みの報告として「ハーモニー特別号」を作成いたしましたので、皆さんにお届けします。今後の大平地区の地域活動の参考にさせていただければ幸いです。

平成 28 年度 男女共同参画地域づくり講座の概要

講座には、区長、副区長、地区社協、女性部、小中学校 PTA の方を中心に、約 70 人の皆さんに参加いただきました。

静岡県立大学の犬塚教授を講師にお招きし、前半は、男女共同参画の基礎知識と地域防災に活かせる男女共同参画の視点を学び、避難所運営訓練を行いました。

後半は、避難所運営訓練のふりかえりとともに、視点を地域活動全体に向け、地域活動における男女の偏りのある組織やジャンルなどを洗い出し、その解消法についてワークショップを行いました。



犬塚教授の講演の様子

	開催日	講座内容
第 1 回	6 月 1 日(水)	・講義「男女共同参画って何？」
第 2 回	6 月 26 日(日)	・HUG(避難所運営ゲーム)
第 3 回	7 月 22 日(金)	・避難所運営基礎講座 ・グループワーク「多様な人々の視点を活かした地域の防災対策」
第 4 回	8 月 24 日(水)	・避難所運営訓練検討会
第 5 回	9 月 4 日(日)	・避難所運営訓練(総合防災訓練の一環)
第 6 回	10 月 19 日(水)	・避難所運営訓練のふりかえり ・グループワーク「性別に偏りのある組織・運営・行事・ジャンルとは」
第 7 回	12 月 7 日(水)	・講座のふりかえり ・ミニ講座及び個人ワーク 「あなたが考える地域活動における男女の偏りの解消法」

避難所 運営訓練

実施日：平成 28 年 9 月 4 日(日)

会 場：大平中学校 体育館

参加者が「総務・情報班」、「避難者・施設管理班」、「保健衛生・物資班」に分かれ、避難所の設営や、避難者への対応を実践しました。

また、交代で避難者役も行き、避難者の視点も体験しました。



会場設営



オリエンテーション

当日の プログラム

会場設営

- ・受付
- ・居住スペース
- ・ユニバーサルトイレ
- ・更衣室、授乳室

オリエンテーション

- ・内容、スケジュールの確認
- 各班配置、避難者役準備

避難者・施設管理班

避難者受付

避難者名簿を受け取り、避難者の状態に合わせ搬送方法を決定し、居住スペースへ搬送。

保健衛生・物資班

避難者の健康状態等の把握
避難者の健康状態、心配事、協力できること等を健康チェックシートへ記入し、総務・情報班へ提出。

避難者役

訓練中に気づいた点を記入し、総務・情報班へ報告。

総務・情報班

情報収集

健康チェックシートや避難者役からの意見をまとめる。

各 班

グループワーク
訓練のふりかえり

※「避難者受付」から「グループワーク」までのローテーションを 2 回実施し、最後に全体のまとめ・ふりかえりを行いました。

会場レイアウト

訓練のためのレイアウトなので、実際の避難所レイアウトとは異なります。

車いすでも入れるユニバーサルトイレを設置しました。

避難者・施設管理
机 机

車イス 担架
車イス 応急担架

避難者の状況に合わせて、車いすや担架で居住スペースに案内しました。

UD
トイレ

避難者役

保健衛生・物資班

居住スペース	居住スペース
居住スペース	居住スペース
居住スペース	居住スペース
居住スペース	居住スペース

避難者と同性の者が対応することで、避難者が安心して受付できるよう、男女ともに配置しました。

パーテーション

総務・情報班

ホワイトボード

机
机

更衣室
授乳室

女性が安心して洗濯物を干したり、授乳ができるスペースを設置しました。

各班から提出された情報を集約し、避難所の円滑な運営について検討しました。

居住スペースは、家族単位で間仕きりし、プライバシーに配慮しました。また、避難者の健康状態等の聞き取りには、避難者が答えやすいよう、同性同士となるよう配慮しました。

避難所運営の ポイントは…

「多様性への理解と配慮」

地域には様々な方がいらっしゃいます。

年齢も性別も、抱えている事情もそれぞれが異なる中で、いかにその多様性に配慮しながら、皆で協力していくかが重要となります。

参加者の感想

- 女性へは、女性の対応が良いと思った。
- 運営はやはり男女で協力してやっていくべきだと思いました。
- 短時間だったが、みんなの協力は不可欠！大事だと思いました。
- 論より証拠である。日々の経験の少ない男女共同参画を大いに体験できた。
- 対応者、避難者の両方の立場を経験することが出来たのは良かったと思います。
- 1回目より2回目の方がスムーズにでき、訓練は何回もやらないといけないと実感した。



地域活動 における 男女の偏り

実施日：平成 28 年 10 月 19 日(水)、12 月 7 日(水)

会 場：大平地区センター

避難所運営のような非常時において「男女共同参画の視点」が発揮されるためには、日頃の地域活動における組織や運営から、男女ともに参画していることが重要です。

現状、どちらかの性別に偏っていると思われる分野を洗い出し、どうすればもう一方の性別が参加しやすくなるのか、その解決案についてグループワークを通じて検討したところ、次のような意見が出ました。

男性に偏っている分野

- 自治会連合会、各区長
- 自主防災会
- 消防団
- 小中学校 PTA の会長
- 老人会役員
- 力仕事

など

女性に偏っている分野

- 婦人会
- 社会福祉委員会
- 子供会役員
- ボランティア活動
- 葬祭時のお茶の接待
- 家事全般

など

女性が参加しやすくなる方法

【自治会や PTA などの組織役員】

- いきなり会長ではなく、副会長から始める。
- 可能性のある女性役員を選出する。
- 会合の時、男女 2 名参加にする。
- 家事を分担する。

【防犯や防災の担当】

- 女性の得意とする広報活動、人付き合いなどからスタートする。
- 知識と経験が大事なので、男女関係なくできる。

【その他】

- 女性が活動するためには家族の理解が必要。日頃から家族の会話を。

など

男性が参加しやすくなる方法

【家事や子育て】

- 仕事が休日の時にお父さんに家事を協力してもらおう。
- 男性のこだわりを捨て、掃除、洗濯をする。
- 1 つでもいいので手伝ってもらいたい。

【学校行事やボランティアの参加】

- 会社の理解
- 学校行事を土日に行い、父親が来やすくする。
- お母さんと交代制で学校行事に参加する。

【家族の介護や看病】

- 力を必要とする介護には男性が取り組むべき。
- 男性の意識改革。
- 頼まれた用事をとりあえず 1 つする。

など

平成29年度 沼津市男女共同参画地域フォローアップ事業

この事業は、昨年度実施した「男女共同参画地域づくり講座」を踏まえ、地域におけるさらなる男女共同参画意識の定着を図り、継続的に男女共同参画活動の実現サポートするために実施しています。

今年度は、地域活動における男女共同参画の実践がどのように進んでいるのか、大平地区社会福祉協議会の活動、とりわけ企画の段階にスポットを当て、さらに男女共同参画を推進するためには、どのような視点を取り入れると良いのか、静岡県立大学 国際関係学部 犬塚協太教授にアドバイスをいただきました。

大平地区社協の活動は、皆さんご存知のとおり、「エンゼルサロン」、「ぴよぴよ」や高齢者を対象とした「はつらつ大平」をはじめ、「敬老行事」の企画・運営を行っているほか、「大平安心くん」を対象世帯に配布するなど多岐にわたります。

特に今年度は、約 800 世帯に「救急医療情報キット」の配布を行うなど、例年以上に忙しい年となりました。

ところで、大平地区社協の活動は、どのように企画・運営されているのでしょうか。それを知るために、平成 29 年 10 月 20 日(金)と 1 月 20 日(土)に開催された企画委員会に犬塚先生とともにお邪魔しました。

企画委員会は、12 人(男性 7 名、女性 5 名)で構成され、毎月 1 回、各活動の内容について検討されます。

企画委員会の皆さん



会議の様子



大平安心くん準備作業

犬塚教授のコメント

男女共同参画の視点から見て、企画委員会の委員構成は、ほぼ男女半々となっていて、とてもバランスがよく、女性も意見を言いやすい組織体制であると感じました。また、委員の皆さんは、互いに意見を言い合うけれども、決して感情的にはならず、後にしこりを残さないようないい関係を築いているのが伺えます。

原明子委員長の進行のもと、男性も女性も委員全員がそれぞれ意見やアイデアを出し合い、とても活気のある会議でした。会議がよどむことなく、また対立関係を生む事なく、互いの意見を聞きながら和やかに進んでおり、これは、原委員長のファシリテーターとしての力量もさることながら、他の委員の皆さんが自分の役割をきちんと認識し、積極的な姿勢で臨んでいることが大きいと思います。

1 点だけアドバイスをするのであれば、コミュニティ祭りの際の準備で、「女性は買い物、テントの設営は男性」と性別で役割分担をされていたことです。長年の慣習かもしれませんが、悪い事ではありませんが、一部でもいいので、男性も買い物をしたり、力仕事にも女性が参加して、新しい経験・役割を身に付けるといいのではないかと思います。

企画委員会の組織体制や運営方法は、男女共同参画の視点からすると、まさに理想的なモデルケースなので、大平地区の他の団体・組織にも広めていただきたいと思います。



犬塚教授



発行:沼津市 企画部 地域自治課 協働推進係
〒410-8601 沼津市御幸町 16-1
T E L : 055-934-4807
F A X : 055-931-2606
E-mail : kyodo@city.numazu.lg.jp
(平成 30 年 3 月発行)

